

## プール活動、水遊びの安全（2017年ダイジェスト版）

プール活動がすでに始まっている園もたくさんあると思います。遅くなってしまって、ごめんなさい！

### 1. 絶対に無理をしない

特に、プールの監視担当の方は、体調がよくない、寝不足など、監視行動に集中できないと思ったら、「今日は監視、できません」と言ってください。そして、他に監視を担当できる職員がいなかったら、プール活動を中止する、または水遊びに切り替えてください。まわりの方は「え、できるでしょ？」「できないの？」と言ってはいけません。

**監視担当者は、子どもの命、社会的責任、両面の重責を負っているのですから、でき（そうに）ない時に「できます」と言ってはダメです。**

### 2. 「無理をしない」と保護者に伝えておく

下のリンクの手紙を保護者に出す園が増えていきます。安全を優先させ、保護者の理解を求めるリスク・コミュニケーションです。公立保育園でも「夏期は職員が休暇をとる時期」という節を明示して渡す自治体が出てきました。「休暇＝配置基準を欠く」ではなく、「監視という重責を負える職員が誰もいないかもしれない、いてもできないかもしれない時期」という意味ですから、この一節に問題があろうはずはありません。保護者も休暇をとる時期なのですから、事実を書いて当然です。

すでにプールを始めてしまっても、**掲示などをしておきましょう。**「どうして今日はプールに入れてくれなかったの？」と言われた時、「こういうことなので」とさらりと説明できるように、です。

（下のリンクはクリックできます。）

[http://daycaresafety.org/topic\\_pool\\_risk\\_2017.pdf](http://daycaresafety.org/topic_pool_risk_2017.pdf)

### 3. 監視担当は「指差し声出し」を

指または手のひらを向けるのは、からだをそちらに向けるため。声を出すのは、黙って立っていたら「暑い」とばかり考えてしまう（＝うわの空）自分の脳に「私は今、〇〇ちゃんが生きて動いていることを確認した」と言い聞かせ、うわの空になるのを止めるため。

詳しくは、「安全に関するトピックス」の1-6（指差し声出し）と4-1（水遊び、プールの安全）をお読みください。

[http://daycaresafety.org/topics\\_main1.html](http://daycaresafety.org/topics_main1.html)

### 4. 沈んでいる子がいれば見つけられる？

「安全に関するトピックス」の4-3（ライフガードの実験）に要約してある通り、プロのライフガードでも水の底に沈んでいるマネキンは見つけられません。

そして、保育士は習慣上、どうしても動いている子どもに目を向けます。「誰か沈んでい

ないかな」と動いていない子どもを見つけようとしても、ただ見ているだけでは、指導担当の言うことを聞かない子どもや、よく動いている子どもについて目が行ってしまいうでしょう。その横で誰かが沈んでいても、見つけられない、しばらく気づけない可能性があるのです。

ですから、「今、生きて動いているはずの子どもたち」が全員、生きて動いていると、一人ひとり指差し声出しで確認するほうが、理にかなっています。

## 5. 監視担当はずっと監視を続けられる？

無理です。たとえ指差し声出し確認を続けていても、20～30分、暑さの中に立っていたら集中力は落ち、「ただ、繰り返しているだけ」になります。20～30分の監視であっても、子どもがプールの外で休憩している時は補水をする、涼しい所に入るなどしてください。

## 6. 監視者がわかる目印を

監視者は腕章などをしましょう。監視者に別の用事を頼んだりしないためです。監視者がどうしてもその場を離れなければいけない時には、その目印を代替りの人に渡します。「責任を渡したよ」という意味の行動です。

もちろん、監視者が急に交代するのはできる限り避けるべきです。「私が監視ですか？」「すぐ戻ってくるから、ちょっとだけ」という状況は危険です。園長や主任、看護師などが監視をしている時の電話対応も決め、「今、手を離せませんから後でかけ直します」と事務室にいる人がはっきり言ってください。業者などの訪問者には、「今、プールの監視をしていますから」と言い、待ってもらうか、別の人が対応を。

## 7. 異常事態に即した想定練習をしてください

「安全に関するトピックス」の1-2の例1に書いてある通りです。

[http://daycaresafety.org/topics\\_main1.html](http://daycaresafety.org/topics_main1.html)

**要点1**：プール活動、水遊びをしているすぐ横に、携帯電話と救急に電話をする時の通報シートを置きます。特に、指導と監視の2人でプールをしている場合、心肺蘇生をしている監視係を残して指導係がプールを離れてはいけません。他の子どもが二次災害の危機にさらされます。その場から救急車を呼び、その後、その場から事務室に電話、です。事務室に電話をしに走って行ってそこでおたおたしていたら、心肺蘇生の交代もできません。

**要点2**：「子どもが沈んでいる！」という事態を想定した練習を必ずしてください。一刻を争う事態ですから、実際に起きてパニックを起こさないための練習が不可欠です。

★水遊びの場合など、詳しくは上の4-1をお読みください。リスク・コミュニケーションについては「コミュニケーションに関するトピックス」のB-1を。

[http://daycaresafety.org/topics\\_main2.html](http://daycaresafety.org/topics_main2.html)